

1 審議会名	上田市公文書館運営協議会（第17回）
2 開催日	令和8年7月28日（火）午後2時00分から午後3時00分まで
3 会場	上田市公文書館2階閲覧室
4 出席委員	中村会長、桂木委員、小宮山委員、矢嶋委員、相川委員
5 市側出席者	山崎総務課長、野澤文書法規係長、浅野公文書館長、塩沢公文書館主事
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
6 会議概要作成年月日	令和8年7月31日
協 議 事 項 等	
1 会長あいさつ ・ 今年は市町村合併から20年となる。4市町村が合併するというのは、大変な作業であった。現在公文書館の1階では、合併に関する展示が行われているので、ご覧いただきたい。 ・ 公文書館に移管する文書の選別は大きな影響があることから、委員の皆様にはご意見をいただきたい。 2 議事 (1) 令和8年度リテンション文書選別【会議の進め方】 ○ 資料1にまとめた、事前に各委員から提出された意見に対し、事務局の考え方を説明。 ○ その後、各委員の意見、質問等。 【A委員の意見に対する協議】 1 移管及び廃棄候補リストによる選別作業について ○(1)について （事務局） ・ 廃棄候補リストについては、廃棄候補文書が5,916点と膨大であることから、委員の皆さんには保存年限が10年以上の文書について確認をいただいている。次に、移管候補リストの中に保存年限が短いものがあることについては、保存年限が長い文書は大切な文書が多い傾向にあるものの、現用文書として管理する保存年限と、歴史的価値の観点からの選別基準に基づく移管の判断は異なる場合があると考えている。 （委員） ・ 職員の感度が少し違うのではないかと感じる部分がある。公文書館の容量が心配なこともあるが、廃棄するものは廃棄するという職員の目合わせをもっとやっていく必要があるのではないか。 （事務局） ・ 多くの職員がいる中で同じ目線で選別をするというのは大変なことであるが、その拠り所となるのが選別基準である。今年度の庁内文書担当者会議でも詳しく説明し、これに沿った選別をするよう周知をしている。 【B委員の意見に対する協議】 1 移管及び廃棄候補リストによる選別作業について ○(1)について （事務局）	

- ・ B149 の簿冊の内容は、自校給食校の給食費の徴収や未納の対応等について検討を行ったものである。また、B159 は例年行われる会議で、自校給食校の安全衛生や食に関する指導などの方針について確認しているものである。いずれも歴史的事項としてとらえられる自校給食の存続問題の内容ではないことから廃棄としたい。

(委 員)

- ・ センター化をめぐって色々な議論があったり、自校給食の検討の経緯が分かるものであれば大事かと思うが、そうした資料ではないため廃棄について承知した。

2 公文書館運営全般について

(事務局)

- ・ 個人情報の保護については、公文書館条例及び規則に規程があり、情報公開条例に準拠し判断をしている。よって、個人を識別できる情報は原則非公開となるが、例外規定もあり、慣行として公にされている情報や公務員の職務遂行上の情報などは公開するよう取り扱っている。

(委 員)

- ・ なかなか判断が難しいところはあるが、刊行物などについて制限がされている場合があるがどうか。また、たとえば遺族会の資料で公になっている氏名などは、他の資料でも公開しても良いのではないか。また、経過年数による取扱いはどうか。

(事務局)

- ・ 個々の資料についてどのように利用されていたのかは可能な限り確認する必要があるが、広く一般的に配布されていた刊行物などは、公開でよいと考える。他の資料に載っている氏名に関しては、それをすべて突き合わせることは、難しい面があると感じている。また経過年数については、情報公開条例に基づく個人情報保護では、経過年数の規定はない。

(委 員)

- ・ 遺族会とは別の資料で死者の情報が載っている場合、全く同じものかということもあるし、遺族はどのような感情を持っているのかなどを考えると、検討の余地があると考ええる。

(委 員)

- ・ 公の刊行物ということであれば、新聞なども同じか。

(事務局)

- ・ 個人情報の面では同じであるが、著作権にも配慮していく必要がある。

【C委員の意見に対する協議】

1 移管及び廃棄候補リストによる選別作業について

○(1)について

(事務局)

- ・ リスト No93 と同じで、5 年保存でお願いしたい。

【E委員の意見に対する協議】

(委 員)

- ・ 事前に送付しなかったが今年の移管リストを見て、2019 年の 19 号台風災害と 2020 年からのコロナのパンデミックに関する文書の移管が本格的な時期になってきている。部局が多岐にわたるが、貴重な資料が残されていると感じている。